

容器包装リサイクル法 見直しに係る 自治体意見について

平成25年10月29日

石川県小松市

小松市の 紹介

ごみの
現状、施策

資源ごみ
再生の現状

資源再生
の課題

要望事項

最後に



小松市の紹介



位置 : 北陸地方、石川県の西南部に位置

地形 : 面積 371.13km²

人口 : 109,065人、42,259世帯
(平成25年4月現在)

交通 : 小松空港 (航空自衛隊小松基地と共用)
小松駅 (平成27年北陸新幹線金沢開業)
北陸自動車道 (小松IC)
国道8号線

主要産業 : (株)コマツを代表とする
建設機械、繊維産業、
九谷焼などの窯業
⇒ 「ものづくり」が盛ん





小松市の紹介



小松市の紹介

ごみの現状、施策

資源ごみ再生の現状

資源再生の課題

要望事項

最後に

歌舞伎のまち：安宅の関（勸進帳）、子供歌舞伎

乗り物のまち：航空プラザ、こまつの杜
（株）コマツの超大型ダンプ展示）
日本自動車博物館など

科学と交流のまち：今秋駅前に科学交流館
（サイエンスヒルズ）オープン

環境王国こまつ：北陸三県で初認定
里山・里湖の豊かな自然と木場潟
（平成27年度全国植樹祭主会場）

観光地：安宅の関、那谷寺
栗津温泉

グルメ：小松うどん
塩焼きそば



小松市の
紹介

ごみの
現状、施策

資源ごみ
再生の現状

資源再生
の課題

要望事項

最後に

ごみの現状、施策

年間排出量：36,552t（平成24年度、918g/人日）

可燃ごみ：29,410t（80%）

資源ごみ：5,683t（16%）※集団回収を含む

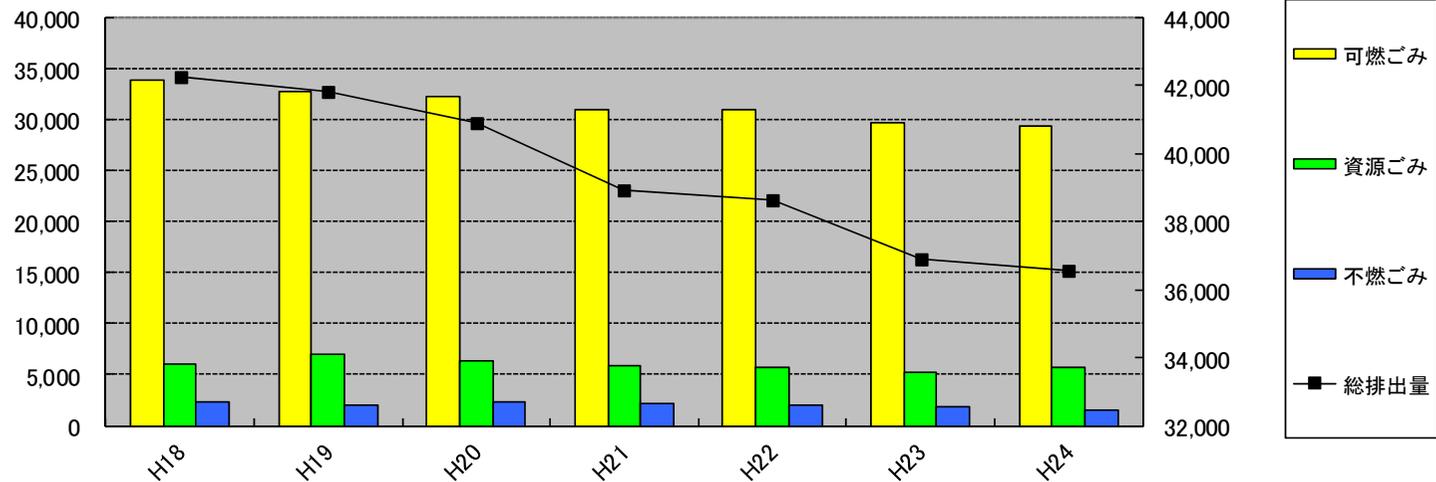
不燃ごみ：1,460t（4%）

排出量推移

各排出量（棒グラフ、t）

排出量の推移

総排出量（折れ線グラフ、t）



ごみの現状、施策

小松市の
紹介

ごみの
現状、施策

資源ごみ
再生の現状

資源再生
の課題

要望事項

最後に

処理施設：小松市環境美化センター



焼却炉：50t/日×3炉

平成30年度新型炉竣工予定

リサイクルセンター

：平成20年4月稼働

民間委託にて運営



最終処分場：埋立容積51万 m^3

分別区分：11種類20分別（平成22年10月改定）

一般ごみ：週2回収集

資源・不燃：月1回収集

大型ごみ：有料個別回収

周知方法：年1回、カレンダーを全戸配布

分別・出し方の手引きを希望者へ配布

エコイベントでの周知、出前講習会開催

ごみの現状、施策

年間処理費用：930,084千円

（平成23年度、廃棄物会計基準）

主な関係施策：

- ・ 景観配慮型集積所設置事業補助金
- ・ 生ごみ処理機等設置事業補助金
- ・ ごみ減量化推進事業（古紙等の拠点回収）
- ・ 剪定枝堆肥化事業
- ・ 小松市廃棄物減量等推進員
（通称：リサイクルリーダー）の設置
- ・ 市民団体（ごみダイエットプロジェクト等）
との協働による減量化啓発活動の実施
- ・ 分別マナー出張講座の開催

※**家庭ごみ収集の有料化は実施していない**

※**集団回収に対する補助金等無し**

小松市の
紹介

**ごみの
現状、施策**

資源ごみ
再生の現状

資源再生
の課題

要望事項

最後に

資源ごみ再生の状況

小松市の
紹介

ごみの
現状、施策

資源ごみ
再生の状況

資源再生
の課題

要望事項

最後に

資源ごみの再生ルート（抜粋）

- ・ 容器包装プラ⇒指定法人ルート
- ・ ペットボトル⇒指定法人ルート
- ・ ガラス製容器⇒独自処理（県外、1年毎入札）
- ・ 紙製容器包装⇒個別の区分収集なし※1
- ・ スチール缶 ⇒独自処理（市内、半年毎入札）
- ・ アルミ缶 ⇒独自処理（市内、半年毎入札）
- ・ （鉄屑金物）⇒独自処理（市内、3ヶ月毎入札）
- ・ （小型家電）⇒独自処理（市内、3ヶ月毎入札）

ガラス製容器以外の独自処理では、市内所在の再商品化事業者から入札により買受先を選定（ガラス製容器については市内に再商品化事業者が不在なため県外事業者と契約）

※1 雑誌、チラシ類に含め古紙区分の一つとして収集している

資源ごみ再生の状況

小松市の
紹介

ごみの
現状、施策

資源ごみ
再生の状況

資源再生
の課題

要望事項

最後に

資源ごみの分別、排出状況（排出量はH24）

- ・ 容器包装プラ⇒週1回収集 排出量：611t
- ・ ペットボトル⇒月1回収集 排出量：203t
- ・ ガラス製容器⇒月1回収集 排出量：533t
- ・ 紙製容器包装⇒個別の区分収集なし
- ・ スチール缶 ⇒月1回収集 排出量：142t
- ・ アルミ缶 ⇒月1回収集 排出量：120t
- ・ （鉄屑金物）⇒月1回収集 排出量：321t
- ・ （小型家電）⇒月1回収集 2013年10月～※2

収集は可燃ごみも含め集積所形式、収集業務は全て民間へ委託（美化センター持込可）

収集後はリサイクルセンターにて破袋、選別、圧縮梱包等の後、契約再商品化事業者へ引渡し

※2 収集後にリサイクルセンター（民間委託）にてピックアップ回収

資源再生の課題 1

小松市の
紹介

ごみの
現状、施策

資源ごみ
再生の状況

**資源再生
の課題**

要望事項

最後に

分別

- 分別の細分化によるごみ減量効果が頭打ち
- 全体だけでなく資源ごみまでも減少している
- 紛らわしいもの（特に容器包装プラスチック、マークが有っても対象外となるものもある）、ケースバイケースだとなかなか理解が浸透していかない
- 分別区分を一旦変更すると、浸透するまでに相当時間がかかる（市広報誌やHPへ掲載する、地元説明会の実施などを行っているが、周知は年単位での問題、特に高齢者対策が課題）
- マテリアルリサイクルとサーマルリカバリーのどちらがより適しているのか、それにより分別変更、施設・設備変更の検討が必要になる

資源再生の課題 2

小松市の
紹介

ごみの
現状、施策

資源ごみ
再生の状況

**資源再生
の課題**

要望事項

最後に

協会委託

- ・ リスクとリターン（取引の継続性、費用面）
（昨年度に年度途中での取引終了を経験）
- ・ 指定法人ルートと独自ルートの併用は長期的に望ましいか（地元企業の育成）

地産地消

- ・ その地域で出た資源ごみをその地域の業者で処理する（地域の中小業者の育成も視野に、入札の場合に価格で大手に負けてしまう）

処理フロー

- ・ 市から出たものが最終的に何に再生されたのかが分かりづらい、素材一般の話ではなく本市から出たものが具体的に・何に再生されているか指定法人ルートで簡明に示されること

資源再生の課題 3

小松市の
紹介

ごみの
現状、施策

資源ごみ
再生の状況

資源再生
の課題

要望事項

最後に

コスト

- ・ 一般廃棄物会計基準に基づき収支計算を行い市広報誌に処理費用を掲載しているが、必ずしも分かりやすい提示ができていない
(市会計区分と会計基準区分が違うため、
分解し直す手間が大&コスト反映が不正確)
- ・ 独自ルートと指定法人ルートのどちらがよりメリットがあるのか **ガラス**
- ・ 逆有償となる場合の事業者側の対応

拠出金

- ・ 本市ではごみ収集は大型ごみを除き無償であり、合理化拠出金は他の有価物売払収入も含めて雑入として計上しているため、拠出金の使途が明示できていない(金額変動がある点も加味)

要望事項 1

小松市の
紹介

ごみの
現状、施策

資源ごみ
再生の状況

資源再生
の課題

要望事項

最後に

分別の明快化

- 紛らわしい素材は製造段階から排除 **容プラ**
- 善意を無駄にしない
- 市民は分別、リサイクルにそう労力を割けない
(複雑すぎる場合、分別されずに焼却される)

マテリアルリサイクル or サーマルリカバリー

- 人口減少社会、環境意識の向上に伴う排出量の減少傾向や、電力事情の変化
- 焼却炉等、老朽化施設の更新時における方向性を明確にしたい
- 焼却炉に対する予算の確保

有料化に頼らないごみの減量化施策

- モデルケースの構築など

要望事項 2

小松市の
紹介

ごみの
現状、施策

資源ごみ
再生の状況

資源再生
の課題

要望事項

最後に

EPR（拡大生産者責任）の考え方の拡大

- ・ ごみ処理責任が市町村に傾斜しているのでは
- ・ 製造段階からの事業者関与を上昇させる
- ・ EPRの適用拡大、製造者、利用者の義務拡大

処理費

- ・ マクロの話（リサイクルによる社会貢献）と
ミクロの話（個々の自治体にとってどれだけ
特定法人ルートがメリットがあるか）の両方
がより具体的・わかりやすく示されること
- ・ 事業の安定性が何らかの形で担保されること

啓蒙、啓発の強化

- ・ 国民向けに、リサイクルによってどのように
再生利用されているかをもっと分かりやすく、
各種メディアなどより一層の喧伝を

要望事項 3

小松市の
紹介

ごみの
現状、施策

資源ごみ
再生の状況

資源再生
の課題

要望事項

最後に

検査体制、基準の明確化

- ・ 検査でDランクと判定された場合に、早期の
挽回機会を設ける
- ・ プラスチック製容器包装の場合、Aランクが
ほぼ100%を占める⇒品質向上に向けた
インセンティブとなりにくい状況を改善

不法投棄や持ち去りへの対策

- ・ 古紙では発生していないが、金物や複合製品に
おいては無許可業者による持ち去りと解体後
の家電製品等不用品の不法投棄（持ち去りに
ついては条例を定めて禁止しており、告発
を含めた対応を行っているが再発している）

最後に

小松市の
紹介

ごみの
現状、施策

資源ごみ
再生の状況

資源再生
の課題

要望事項

最後に

社会環境が変化する中で、現場ではどうしても対処療法、後手対応に回っているように感じます。今後目指すべき方向性はどちらなのか、明快なディレクションを望みます。

また、リサイクル化事業については再生資源がその時々で市場・相場の影響を強く受けることによって不安定な状態となりがちです。事業継続、安定化の観点からもこれら要因に対しより柔軟に対応できるような制度体系の構築も必要であると考えます。

みんなの笑顔いっぱいのもち2020

～世界とつながるハーモニーシティ～

ご清聴ありがとうございました。



「温故知新」…感謝！そして未来へ！

「まちの新しい形とイメージアップ」を目指して

小松市